

編集後記

33巻をお届けします。本巻は「体力・運動能力の向上と開発を目指したプログラムの作成」というテーマで組んだプロジェクト研究（2年間の予定）の中間報告が主となっています。報告は11題で、自然科学、人文・社会科学からのアプローチと多分野にわたり、知的好奇心を刺激するものが多いと自負しています。総花的になったクライはありますが、登頂への第1次ベースキャンプと考え、ご容赦願いたい。

「体力づくり」について、日本体力医学会の第23回総会（1969年）のシンポジウムで、東大の故猪飼道夫教授は「体力づくり、体力づくりといっても、いっこうに踊ってこない。その理由として、現代人は生活の中でどれ位の体力があるのかはっきりしていないので体力向上の意欲を持つことがむつかしいのではないだろうか」と問題を出している。この問題は、自戒をこめてであるが、「メタボ」という略語が流行語となっているように、38年後の今日でもあると考えます。

体力も含めてからだに関わる問題の「発見」と「解決」には、多分野の専門家の協力と国民的な運動が必要と考えています。本巻について何かありましたら、忌憚のないご意見をお寄せください。

最後になりましたが、7月23日に学長として落合卓四郎先生が就任し、それに伴い体育研究所の所長が成田國英先生となったことを付記しておきます。

編集委員会 西條修光